

隨泉寺寺報

平成 21 年 (2009 年) 5 月号 第 465 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

宗祖降誕会法要

講師 西方寺住職 安国 真雄師

講題 『信仰 (帰依) について』

親鸞聖人は承安 3 年 (1173) に京都の南、日野の里で誕生されました。父は日野有範 (ひのありのり)、母は詳しくは分かっていませんが吉光女 (きっこうによ) と伝えられています。

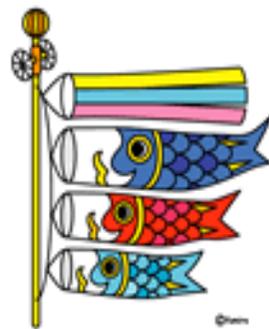


治承 5 年 (1181) 9 歳の春、伯父の範綱 (のりつな) に伴われ、京都三条白川にある慈円 (じえん) の坊舎において得度し、範宴 (はんねん) と名のられました。出家すると比叡山に登り、以後 20 年にわたって天台宗の学問と修行を中心に修学されました。比叡山は宝亀 4 年 (785)、伝教大師 (最澄) によって開かれた仏道修行の根本道場です。

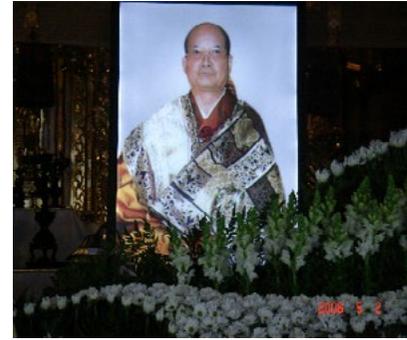
その出家の動機については、聖人一家に不幸な事情があったからとか、貴族の子弟の多くが出家させられた当時の風習によるとかという説があります。いずれにしろ、聖人自身の選びに先立って、聖人をうながす事情があったのでしよう。聖人はそれを仏縁として、出家への道をふみだされたのです。

5 月の法座予定

- 5 月 10 日 掃除 高部
- 5 月 14 日 昼席午後 1 時より 初参式 平成 20 年生まれ
- 5 月 14 日 昼席午後 1 時半より 宗祖降誕会法要
- 5 月 14 日 夜席午後 7 時より 出張法座 高部 庫裏
- 5 月 15 日 朝席午前 10 時より 前住職一周忌法要 おとき
- 5 月 15 日 昼席午後 1 時より 宗祖降誕会法要
- 6 月 2 日 午後 6 時より 門信徒会本部役員会



☆ 隨泉寺前住職 (老院) 聞思院釋不動一周忌法要



昨年 5 月 1 日浄土往生した前住職 (老院) の一周忌法要を 5 月 15 日宗祖降誕会法要の朝席で勤めます。

1 年の経つのは早いものです。門信徒の皆さんと一緒に葬送の儀式を行ったのが、つい昨日のような気がします。今年一年は季節が変わるたびに元気であった頃を思い出し、いろいろ考えさせられました。亡くなった後で判ることが沢山あります。このこともあのことも私が気がつかないがそうであったかと・・・。

大切に勤めさせていただきます。 合掌

☆ 仏旗を新しくしました。

仏旗を新しくしました。今までの仏旗はおそらく 40 年以上前からのものなのでしょか。毎月の御法座に必ず掲げてきましたので、雨のときや風の強い日にもはためいていました。あちこちがほころんできて、何回か婦人会の人に繕っていただきましたが、色も落ち、ほころびも酷く、それにこのたび色も変更になったので、新しくしました。

仏旗は 5 色で出来ています。隨泉寺では法要の時には、必ず門の傍の掲揚台のところを立ててありますので、お参りに来られた時にじっくりと見て下さい。

アメリカ人仏教徒のヘンリー・オルコット (Henry Steel Olcott, 1832 ~ 1907) が日本に伝えたそうです。元々の仏旗の由来を調べてみますと下記の様な説があるようですが、詳しい成り立ちは省かせて頂きます。

- 1) 「小部教典」の「無礙解道」のところで説かれている話が由来している説
- 2) 釈尊が菩提樹の下で悟りを開いた時に放った六色の光から取ったものだという説
- 3) 大乘の『涅槃経』から取ったという説 仏様の智慧を表す 5 色の意味。

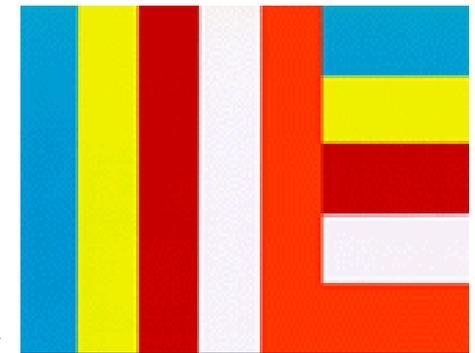
★ 青は仏さまの髪の毛の色で、心乱さず力強く生き抜く力「定根 (じょうこん)」を表します。

★ 黄は燦然と輝く仏さまの身体で、豊かな姿で確固とした揺るぎない性質「金剛 (こんごう)」を表します。

★ 赤は仏さまの情熱ほとぼしる血液の色で、大いなる慈悲の心で人々を救済することが止まることのない働き「精進 (しょうじん)」を表します。

★ 白は仏さまの説法される歯の色を表し、清純なお心で諸々の悪業や煩惱の苦しみを清める「清浄 (しょうじょう)」を表します。

★ 樺は仏さまの聖なる身体を包む袈裟の色で、あらゆる侮辱や迫害、誘惑などによく耐えて怒ら「忍辱 (にんにく)」をあらわします。インド、タイ、ビルマ等のお坊さんがこの色の袈裟を身につけています。



東井 義雄カレンダー

5月

いちばんはもちろん尊い しかし
一番より尊いビリがある

実は私自身も、何もとりえのない男です。頭はよくない。体は貧弱。何ぶん、教員になって、月給をもらうようになったんだからと思って、生命保険にはいろいろと思っても、保険医が入ってくれなかった私です。運動能力は、からっきしだめです。師範（学校）にはいったとき、全員何かの運動部に、はいらなければなら ということだったので、蹴球部（サッカー）の検査のところで、ボールを蹴らされたのですが、それが思いもよら 横っちょの方にとんでしまったので、はねられました。野球部の検査のところで、生まれてはじめてバットというものを、持たせてもらいましたが、あんなツルツルした丸太ん棒に、とんでくる球があたったりする道理がありません。庭球部で、生まれてはじめて握らせてもらったラケットは、ボールがあたるように、幅が広くしてありますから、これはあたってくれるだろうと思って力を入れて振りましたが、どういうわけかあたってくれません。水泳部でプールに突きおとされましたが、犬かきもできず沈んでしまい、部員の人に助け上げてもらいました。競技部で百メートル走らされましたが、もちろんビリッコです。何をやっても目なものですから、みんながあきれていましたが「お前、しんぼう強く粘ることは粘れるかい？」といわれて「はい」と答えましたら、どうにかマラソン部に入れてもらうことができました。

毎日の日課は、姫路城北練兵場一周で五千メートルでした。その一万メートルコースの途中に日の本女学校というキリスト教の女学校がありましたが、女学生たちが見ている前を、みんなから何百メートルも遅れて、犬に吠えられながら走るの、つらかったものです。でも、そのはずかしさを、私は四年間背負って走りました。そして、これによって私は、私の「のろまである」という「荷」を背負うすべを教わりました。

ビリッコを走りながら、私は、「兎と亀」の話をもいつも考えていました。亀が兎に勝ったというが、亀はやはり亀だ、どんなにがんばってみても、のろまな兎の走力をも身につけることはできない。しかし、あの話は、つまらない兎よりも、値打ちのある亀の方が、値打ちとしては上だという話ではないだろうか、兎の中にも日本一だめな兎というのがあるかわりには、亀の中にも日本一の亀というのがあるという話ではないだろうかなどと考えました。そういうことから、ビリッコもあるし、一番より二番よりすばらしいビリッコもある筈だ、だとすると、自分は兎にはなれないが、日本一の亀、日本一のビリッコにはなれるはずだ、と、そんなことを考えたものです。

そして、とうとう四年目、私はすばらしいことに気が付きました。それは、ビリッコにも大きな役割がある、ということでした。ぼくがビリッコをやめたら、仲間の誰かが、このあわれなみじめなビリッコをとらなければなら だろう。それを、ぼくがずっとひとりで引き受けているおかげで、仲間はこのみじめな思いを味わわなくてもいいのだ、と気がついてみたら、世の中がにわかにかに光に満ちあふれているように明るく感じられました。



☆いつも何度でも 作曲者 木村 弓 作詞 覚 和歌子

【 呼んでいる 胸のどこか奥で いつも心躍る 夢を見たい
かなしみは 数えきれないけれど その向こうできっと あなたに会える

繰り返すあやまちの そのたび ひと は ただ青い空の 青さを知る
てしなく 道は続いて見えるけれど この両手は 光を抱ける

さよならのときの 静かな胸 ゼロになるからだが 耳をすませる
生きている不思議 死んでいく不思議 花も風も街も みんなおなじ

ラランランラランラー—ランランララン

呼んでいる 胸のどこか奥で いつも何度でも 夢を描こう
かなしみの数を 言い尽くすより 同じくちびるで そっとうたおう

閉じていく思い出の そのなかにいつも 忘れたくない ささやきを聞く
こなごなに砕かれた 鏡の上にも 新しい景色が 映される

はじまりの朝の 静かな窓 ゼロになるからだ 充たされてゆけ
海の彼方には もう探さない
輝くものは いつもここに わたしのなかに 見つけられたから 】

スタジオジブリ制作、宮崎駿監督で2001年に公開され、大ヒットとなったアニメ映画『千と千尋の神隠し』。木村弓が歌うその主題歌です。この歌は私が大好きな歌です。

阿弥陀様の本願を歌っています。

【かなしみは 数えきれないけれど その向こうできっと あなたに会える】 これはお浄土のことです。

【生きている不思議 死んでいく不思議 花も風も街も みんなおなじ】 阿弥陀様の本願です。

【輝くものは いつもここに わたしのなかに 見つけられたから】 念仏です
ひとつひとつの言葉をていねいに歌い上げる木村弓のヴォーカルと、シンプルだが奥行きのある弦のアレンジが、映画のなかで描かれた「現代に生きる日本人の原風景」にこれ以上ないほどマッチした。この曲のおかげで、作品世界の理解を深いものにした観客も少なくないはずだ。

映画の大ヒットの一端を間違いなく担った理想的な映画主題歌であり、そして映画を離れてもなお心に響く、名曲である。(安川正吾)